



河内小だより

たつの市立河内小学校
〒671-1664 たつの市揖保1町金剛山604
TEL 0791-72-2129
FAX 0791-72-6213

ともに学び合い、心身ともに健康でやさしい河内っ子

河内小学校 HP 【 <https://kochisyo.tatsuno.ed.jp> 】



「ほめるだけでは・・・」 ～ほめられるより、感謝されるほうが成長する～



気がつけばもう年の瀬、冬休み直前となりました。12月は「師走」と言いますが、その由来は普段ゆったりとした動作のお坊さんさえも、12月になるとお経をあげるために東西を馳せる月「師馳す(しはす)」からきていると言われています。先生方にとっても忙しい月となっています。さて、「子どもをほめて伸ばす」とは、よく聞かれる言葉です。その通りだと思います。しかし、何でもかんでも、ほめればよいというものではありません。ほめられたいがためにする行為は、あまり価値がないことは知っての通りです。大した理由もないのにいつもほめてばかりでは、肝心な時にほめられても、そのありがたみがなくなるということです。これは、「ほめる」ではなく、単に「おだてる」になってしまう場合もあるぐらいです。ちなみに、ほめるタイミングは、ほめるべき行為があったその瞬間こそがベストの時が多いです。「どこが、どういいのか。」「どこが素晴らしいと思うのか。」具体的にほめることで、言葉に重みが生まれます。また、ほめるとは立場が上の人から下の人に行う行為です。学校で言えば、教師が子どもに対してすることです。それに対して、「感謝」は立場の上下に関係なくできます。感謝の言葉は誰にとってもうれしいものです。誰かの役に立つことができたという自己肯定感にもつながるでしょう。「ありがとう(有難う=有るのが難しい)」の反対は、「当たり前」。子どもは、その子なりに何か目的をもって行動しています。どんな行動も「当たり前」と思わず、子どもたちに「ありがとう」と感謝する気持ちは必要かもしれませんね。そう思っていると、少しは気が楽になり、心に余裕が生まれ、子どもにもいい影響が出てくるものです。もちろん、「ほめて育てる」のが、基本であることになんら変わりはないのですが・・・。

私自身も、これまで河内小学校の子どもたちが、素直で、明るく、元気に過ごしてきていることを、当たり前のこととは思わず、子どもたちはもちろんのこと、保護者の皆様、地域の皆様のおかげであると、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ご協力ありがとうございました。

令和8年も素敵な年になりますように・・・



の行事予定

- 1日(木) 元日
- 6日(火) 冬休み終了 定時退勤日
- 7日(水) 始業式 地区児童会
- 9日(金) 身体測定 給食開始 委員会活動
- 12日(月) 成人の日
- 13日(火) ALT 学校児童会 ホームデー 口座振替日 定時退勤日
- 14日(水) 民推協推進委員会 PTA 育成部会(広報)
- 15日(木) 安全の日 4年:車いす体験
- 16日(金) 避難訓練
- 17日(土) ゆめクラブ
- 19日(月) 6年:小小交流 SC 来校
- 20日(火) ALT 口座再振替日 ホームデー 定時退勤日
- 21日(水) 4年:認知症サポーター
- 22日(木) 縦割り活動:写真撮影 3年:紅花染め
- 26日(月) クラブ活動
- 27日(火) ALT ホームデー 定時退勤日
- 28日(水) 移動図書館 4年:手話体験
- 29日(木) 3年:昔の道具体験
- 30日(金) 揖保川中学校入学説明会
- < 2月 >
 - 2日(月) 委員会活動
 - 3日(火) ALT 学校児童会 ホームデー 定時退勤日
 - 4日(水) ミニ地区児童会 民推協理事会
 - 6日(金) 新1年生入学説明会

毎月25日は笑顔の日
ノーゲーム ノースマホデー



☆ 表彰 おめでとう ☆

2025.12.15 現在

●令和7年度たつの市学童美術展・発明工夫展

<絵画の部>

<書写の部>

<発明工夫展>

●敬老の日発祥のまち多可町第36回全国おじいちゃんおばあちゃん子ども絵画展

●第69回J A共済小・中学生書道コンクール

<半紙>

<条幅>

●西播磨小学生人権書道コンテスト

●揖龍剣道優勝大会 剣道（団体の部）

●日清食品カップ 第41回全国小学生陸上競技交流大会 男女混合4×100m

●佐用郡郵便局長杯 ソフトボール 兵庫県知事杯

H J S L 定期大会

●兵庫県スポーツ少年団 剣道 総合競技大会 団体の部



11/28(金)・12/3(水) オープンスクール 頑張りました！

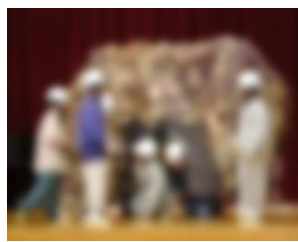
1日目は、4年生の河内隧道物語の観劇をスタートに、3・4校時は普段通りの授業を参観していただきました。保護者・地域の方の眼差しが、子どもたちにとって励みになりました。

2日目は、マラソン記録会で今までの練習の成果を発揮しました。完走を目指して、自身の思いを奮い立たせて頑張りました。

2校時 河内隧道物語

3校時 授業風景

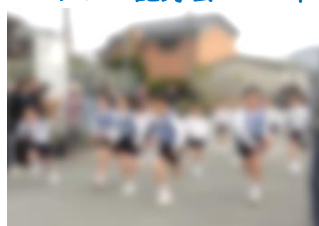
4校時 授業風景



マラソン記録会1・2年

マラソン記録会3・4年

マラソン記録会5・6年



どうせいいぞく 同声異俗

“食”は心をつなぐ愛の表現

年末年始には、手づくりの料理を囲んで家族が集まるご家庭も多いことでしょう。

母や祖母らの懐かしい味が楽しめる——それだけで、実家に足を運ぶ十分な理由になります。慣れ親しんだ味の記憶は、時を経てもその美味しさと喜びを忘れることはありません。ある年配の先輩も、「実家に帰ると、おふくろはいつもおでんを作って待っていてくれたんだ。おふくろのおでん、美味しかったなあ。」と懐かしそうに語っていました。核家族化が進み、家族全員がそろって集まる機会は少なくなってきたかもしれません。だからこそ、皆が集まるときには心を込めた料理を一品でも用意してみたいはいかがでしょうか。“食”は心をつなぐ最も有効な愛の表現です。家族が笑顔になった懐かしい味の思い出とともに、心と体の健康を受け継ぎながら、家族の絆を深めるひとときをお過ごしください。

“食べることは生きること”という言葉聞いたことがあります。“食”は、単に胃袋を満たすだけでなく、心を豊かにしたり生き方そのものにも影響を与えたりするのでしょうね。そして、食べ物の記憶は、思い出と深く結びついているんだと感じました。 【新世12月号 星澤 幸子(料理研究家) 引用】